

特集  
余白が生む未来

「余白」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。時間や空間的なゆとり、心の余裕……日々忙しく、情報やコンテンツが向こうから飛び込んでくるような現代においては、余白をもつこと自体が難しくなっているように感じます。

本特集では、最初から作りこみ過ぎず、相手や流れに委ねることで生まれるものがあるのではないかと私たちは考え、余白の本質について探ってみました。単なる効率化ではなく、立ち止まったり、遠回りしたり、あえて無駄なことをしてみたり……「こうあるべき」を手放すことで、生徒の成長や将来にどんな影響

# 余白の意義と効用

## —「あるべき」を手放した先に

今、「余白」はどう捉えられているのでしょうか。余白と学ぶこと、働くことはどう重なるのか、学校・企業それぞれに余白の目的や意義を取材しました。「学ぶ」余白の糸口としてまず登場するのは、デンマークの大人の学び舎「フォルケホイスコーレ」をモデルに、北海道・東川町に開校したSchool for Life Compath。「余白」に重きを置き、参加者が対話や内省を通して学び、実践する、予定調和ではない学びの場となっています。続いて入学直後の学

生が1年間休学し、ボランティアやインターンシップ、国際交流など自らが計画した社会体験活動を行う「FLY Program」を推奨する東京大学。広島の大崎海星高校では「学校がやるべき」という固定観念を手放し、学校広報活動やプロジェクトを生徒に一任。教員が「見守り」に徹し、生徒のどんな失敗も許容する「余白」なスタンスに注目します。また、横浜創英中学・高校ではソフト制による教員の完全週休2日制を実現し、名実ともに「生

徒主体」の学びと学校運営を目指す、リアルな奮闘をお伺いしました。そして「働く」の余白では、設計図通りに施行することをゴールとせず、あえて使い手への余地を残す一級建築士事務所ドットアーキテクト。そして北欧社会をヒントに、まるで遊ぶように働き、クリエイティブ人材の育成と組織開発支援を行うレア社に取材をしました。なぜ余白が大事なのか、どんな効用があるのか。「こうあるべき」を手放す意義や考え方を探ります。

### index

#### 「学ぶ」の余白

School for Life Compath  
 東京大学「FLY Program」  
 大崎海星高校（広島・県立）  
 横浜創英中学・高校（神奈川・私立）

#### 「働く」の余白

株式会社ドットアーキテクト  
 株式会社レア

詳しい事例は次頁より。

があるのか。「何もない」をつくるのは、学校現場において最も難しいことかもしれない。無理をして余白をつくるのではなく、「こうあるべき」から一歩ひいてみる——本特集を通じて、何らかの余白を体感いただけたら幸いです。